

1.17 は忘れない

阪神・淡路大震災では、被害が同時に広域に及んだため、警察や消防がすぐに救助に向かうことはできませんでした。しかし、そのような中でも、懸命に救助活動にあたった消防士の姿を見て、今度は自分たちが大切な人の命や財産を守りたいと考えた人たちもいます。阪神・淡路大震災から月日が経ち、被災した街は元の姿に戻りましたが、当時、神戸で懸命に災害救助にあたった消防士の思いと同様に、私たちは1.17を忘れず、そのとき得た教訓を伝えていかなければなりません。

時を経て ～新たな仲間を得て～

日々繰り返す消防士の訓練は、災害や救助現場に備えてのことだが、大きな災害の前では人の力がいかに小さなものであるか私は痛いほど思い知らされている。それでも若い隊員たちに訓練の大切さと、災害現場で人の命を救うことと同様に自分の命を守ることの大切さを説く。阪神・淡路大震災のような大災害での救助活動ともなると、日々の訓練を積み救助技術を学んでいても冷静さを欠き、災害の力の大きさに飲み込まれそうになる。自分の身を守り、なお他人を助けようとするなら、自分自身が災害に対する十分な知識を備えるほかないのだ。



(写真提供 神戸新聞社)

1995(平成7)年1月17日午前5時46分、神戸を襲った震度7の揺れは尋常ではなかったが、実際に目にした神戸の街の状況は想像を超えていた。「壊滅状態」と言ってもいいくらいだった。

当日の朝、私は自宅の布団の中で大きな揺れに目を覚ました。「地震だ」と思うと同時に、別の部屋から家族の悲鳴が聞こえた。タンスが倒れ、一瞬で家の中は物が散乱した。家族の無事を確認すると、私はバイクで、当時、勤務していた兵庫消防署へ向かった。とんでもないことが起こったということは理解しているものの、原形をとどめないくらいに崩れたビルや、無残に折れ曲がった高速道路を目の当たりにすると、これが本当に現実に行っていることなのかとわかには信じられなかった。

消防署に着くと、そこはすでに戦場と化していた。震災直後から火災が発生し、空には黒煙が見える。あちらこちらからサイレンの音が聞こえた。当時勤務していた兵庫区と長田区あたりは木造家屋の密集している地域が多く、倒壊した家屋に火災が発生し、一面がまさに火の海だった。瓦礫をかきわけ現場へ入っても水が出ない。通常なら体重をかけて押さえ込むほどの水圧で水を出すホースからは、力なくわずかな水がこぼれる程度だった。「はやく消して！」



(写真提供 近代消防社)

と泣き叫ぶ被災者の声を聞きながら、延焼して次第に焼け落ちていく建物を呆然と見守ることしかできなかった。

延焼を食い止められないとなると、倒壊した家屋の下敷きになっている人たちを、一刻も早く救出しなければならぬ。火の手はもうそこまで迫ってきていた。住民も消防士も一緒に懸命に瓦礫をどけていくが、重機もない救出作業は遅々として進まない。折り重なった瓦礫は想像以上に重く、だんだん手に力が入らなくなってくる。そこに人がいると分かっても出してあげられない。「もう少しがんばって。絶対助けるよ」励ましながら作業を進めるが、次第に声の反応がなくなっていく。現場にいた誰もがやりきれない思いを抱えながら、それでも作業の手は休めなかった。

あの広大な瓦礫の下に何人の人たちが助けを待っていたのだろう。小さな子供やお年寄りもいたに違いない。しかし延焼は食い止められず、無情にも炎は瓦礫を飲み込んでいった。

現場で不眠不休の救助活動をしている消防士の多くが自らも被災者だった。家や家族を亡くしても他人を助けるためにがんばっている者もいた。「助けて」「火を消して」と懇願されてもどうすることもできない自分の無力さを思い知り、やりきれない思いを抱えていたのは私だけではないはずだ。しかし、あの時応援に来てくれた他都市の消防士を含め、現場に携わったすべての消防士はできる限りのことを精一杯やったのだ。

救出したとき意識がなかったあの赤ちゃんは助かっただろうか。助け出されて外の様子を見たとき、いっそ死んでしまえばよかったとつぶやいたお年寄りは、生きる気力を取り戻しただろうか。あの時助かった命が、もう一度前を向いて歩きだしてくれていることを願っている。

震災から時が流れ、神戸の街は以前のように美しい街並みを取り戻した。そして幼い頃に震災を経験した、若い消防士が私たちの仲間に加わっている。中には当時救助活動をしている消防士を見て、自分も消防士を志したという者もいる。

災害を止めることはできないかもしれないが、その時どうすることが最善なのか、どう対応すべきなのかを準備することはできる。私たちが経験した震災での苦い思いを、後輩たちに伝えていかなければならないと思う。震災を乗り越え、志高く消防士の道を選んだたくさんの方々が、後に続いてくれることを心強く感じている。

(当時 神戸市消防局 兵庫消防署職員)